

農業、6次産業化、地産地消、環境保全(農林水産業・食品産業)、農福連携

捨てるを活かす「やさいくる活動」

活動の経緯

本当に安全で安心な食事を提供したいという思いがありながらも、日々捨てられる食品残渣を目の当たりにし、もったいないを生かす取り組みができないか模索し、6事業者より構成される日本栄養給食協会グループが平成22年度より地域内での食循環システム「やさいくる活動」に取り組む。

活動の概要

グループ、地域内での食循環システム「やさいくる活動」、野菜栽培や出荷作業での農福連携、栃木県内での食育推進、大豆を用いた主菜開発など



やさいくる活動



ごろごろ畑産大豆のみそや野菜の給食

活動の成果、主な実績等

- グループ内の給食や外食産業から排出された食品残渣より製造された有機土壌活性液「育(そだつ)くん」を「(株) 育くんファーム」などグループ企業の農園で使用する畑を「ごろごろ畑」と名付け、これを活用した野菜・穀物を給食や運営するパン工房などへ提供するほか、農産物直売所等で販売。売上高は平成30年度の約1,600万円から令和4年度の約3,300万円へ倍増。
- 「(株) 育くんファーム」の売上高は、平成30年度の約1,200万円から令和4年度の約3,300万円へ増加。
- 食育推進では、「うつのみや食育フェア」での出展や図書館との共催による食育講話を開始。
- タンパク質不足への代替商品として大豆の主菜を開発し、給食に導入。